

A dark, textured background map of East Asia, showing the Korean Peninsula, Japan, and parts of China and Russia. The map is rendered in shades of brown, green, and blue, with a slightly grainy, historical feel.

中国の文化Ⅲ

日中文化交流史

第三回 朝貢から外交へ

前回の復習

現生人類は、その優れた言語能力によって高度な文明を築いた。

アジア各地から日本列島に渡り、縄文、弥生の文化を築いた人々は、遺伝的には多様な集団であったが、やがて日本語を共通言語とし、時間や空間を超えて知識を伝達・蓄積すること、独自の文化圏を形成していった。

日本列島に誕生した日本語文化圏・倭は、紀元後まもなく中国との交渉を開始し、さらに朝鮮半島との交流を通じて、儒教や仏教などの先進的な文明を取り入れていった。

近年には、日本や中国、韓国での新たな考古学的発見によって、倭とアジア各地の交流がしだいに明らかになるとしている。

日本語文化圏・倭の拡大

〔解説〕

五世紀ごろ、倭は日本列島全体に勢力を拡大していった。そのようなは、倭王武（ワカタケル大王）が四七八年に中国南北朝時代の宋の順帝に送った上表の中に記され、それを裏付ける遺物も出土している。

國將軍號詔竝聽二十年倭國王濟遣使奉獻復以爲安東將軍倭國王二十八年加使持節都督倭新羅任那加羅秦韓慕韓六國諸軍事安東將軍如故并除所上二十三人軍郡濟死世子興遣使貢獻世祖大明六年詔曰倭王世子興奕世載忠作藩外海稟化寧境恭修貢職新嗣邊業宜授爵號可安東將軍倭國王興死弟武立自稱使持節都督倭百濟新羅任那加羅秦韓慕韓七國諸軍事安東大將軍倭國王順帝昇明二年遣使上表曰封國偏遠作藩于外自昔祖禰躬擐甲冑跋涉山川不遑寧處東征毛人五十五國西服衆夷六十六國渡平海北九十五國王道融泰廓土遐畿累葉朝宗不愆于歲臣雖下愚忝胤先緒驅率所統歸崇天極道遙百濟裝治船舫而句驪無道圖欲見吞掠抄邊隸虔

劉不已每致稽滯以失良風雖曰進路或通或不臣亡考濟實忿寇讐壅塞天路控弦百萬義聲感激方欲大舉奄喪父兄使垂成之功不獲一簣居在諒闇不動兵甲是以偃息未捷至今欲練甲治兵申父兄之志義士虎賁文武効功白及交前亦所不顧若以帝德覆載摧此疆敵克靖方難無替前功竊自假開府儀同三司其餘咸假授以勸忠節詔除武使持節都督倭新羅任那加羅秦韓慕韓六國諸軍事安東大將軍倭王

荆雍州蠻槃瓠之後也分建種落布在諸郡縣荆州置南蠻雍州置寧蠻校尉以領之世祖初罷南蠻併大府而寧蠻如故蠻民順附者一戶輸穀數斛其餘無雜調而宋民賦役嚴苦貧者不復堪命多逃亡入蠻蠻無徭役疆者又不供官稅結黨連群動有數百千人州郡力弱則起爲盜賊種類稍多戶口不可知也所在多深

倭王武の上表(四七八年)

「倭国王は順帝の昇明二年(四七八)、使節を派遣して上表して言った。

『わが国は辺境に封じられ、外部の藩屏となつてゐる。父祖の代より甲冑を纏つて山川を涉り、休むことはなかつた。東は毛人(蝦夷)五十五国、西は衆夷(熊襲、隼人など)六十六国、さらに海を渡つて北の九十五国を征服した』上八年加使持節都督倭新羅任那加羅秦韓慕韓六國諸軍事安東將軍如故并除所上二十三人軍郡濟死世子興遣使貢獻世祖大明六年詔曰倭王世子興亦世載忠作藩外海

宋書卷九十七倭國伝

稟化寧境恭修貢職新嗣邊業宜授爵號可安東將軍倭國王興死弟武立自稱使持節都督倭百濟新羅任那加羅秦韓慕韓七國諸軍事安東大將軍倭國王順帝昇明二年遣使上表曰封國偏遠作藩于外自昔祖禰躬擐甲冑跋涉山川不遑寧處東征毛人五十五國西服衆夷六十六國渡平海北九十五國王道融泰廓土遐畿累葉朝宗不愆于歲臣雖下愚忝胤先緒驅率所統歸崇天極道遙百濟裝治船舫而句驪無道圖欲見吞掠抄邊隸虔

劉不已每致稽滯以失良風雖曰進路或通或不臣亡考濟實忿寇讐壅塞天路控弦百萬義聲感激方欲大舉奄喪父兄使垂成之功不獲一簣居在諒闇不動兵甲是以偃息未捷至今欲練甲治兵申父兄之志義士虎賁文武効功白及交前亦所不顧若以帝德覆載摧此疆敵克靖方難無替前功竊自假開府儀同三司其餘咸假授以勸忠節詔除武使持節都督倭新羅任那加羅秦韓慕韓六國諸軍事安東大將軍倭王

荆雍州蠻槃瓠之後也分建種落布在諸郡縣荆州置南蠻雍州置寧蠻校尉以領之世祖初罷南蠻併大府而寧蠻如故蠻民順附者一戶輸穀數斛其餘無雜調而宋民賦役嚴苦貧者不復堪命多逃亡入蠻蠻無僞役彊者又不供官稅結黨連群動有數百千人州郡力弱則起爲盜賊種類稍多戶口不可知也所在多深

金錯銘鉄剣（埼玉県稻荷山古墳出土）

倭Ⅱ日本語文化圏の拡大

埼玉県と熊本県の古墳からは「獲加多支鹵大王」（ワカタケル大王Ⅱ倭王武）に仕えた地方豪族の鉄剣や鉄刀が発見されている。

これらの発見により、倭王武が南北朝宋に送った上表にあるとおり、四世紀から五世紀にかけて倭Ⅱ日本語文化圏が日本列島全体に勢力を拡大していたことが明らかになっている。

銀象嵌銘大刀（熊本県江田船山古墳出土）





NHK ETV特集「日本と朝鮮の2000年・第2回 任那日本府の謎」より

倭王武の上表(四七八年)

「倭国王は順帝の昇明二年(四七八)、使節を派遣して上表して言った。

『わが国は辺境に封じられ、外部の藩屏となつてゐる。父祖の代より甲冑を纏つて山川を涉り、休むことはなかつた。東は毛人(蝦夷)五十五国、西は衆夷(熊襲、隼人など)六十六国、さらに海を渡つて北の九十五国を征服した』二十八年加使持節都督倭新羅任那加羅秦韓慕韓六

國諸軍事安東將軍如故并除所上二十三年軍郡濟死世子興遣使貢獻世祖大明六年言曰倭王世子興亦世載忠作藩外海稟化寧境恭修貢職新嗣邊業宜授爵可安東將軍倭國王興死弟武立自稱使持節都督倭百濟新羅任那加羅秦韓慕韓七國諸軍事安東大將軍倭國王順帝昇明二年遣使上表曰封國偏遠作藩于外自昔祖禰躬擐甲冑跋涉山川不遑寧處東征毛人五十五國西服衆夷六十六國渡平海北九十五國王道融秦廓土遐畿累葉朝宗不愆于歲臣雖下愚忝胤先緒驅率所統歸崇天極道造百濟裝治船舫而句驪無道圖欲見吞掠抄邊隸虔

「海北九十五国」とは、どこを指すのでしょうか？



日本列島に広く勢力を拡大し、アジアとの交流も開始した倭だったが、その文化は他の国々に大きな遅れをとっていた。

珍交易用金銀幣禮以金帛銀幣馬牛等以四匹馬為羣五羣為並
以婦兄弟把手旬度國東万五千里澤國西万里極東羅門國南万里有
又婆羅門國北万里時沉博臣人並二年正月三安馬起岸表獻辭于



百濟國使



倭國使

高校の日本史では「ヤマト王権」と習いましたが、「ヤマト(大和)」と「倭」は同じなのですか？

倭國使

氣志西王所居曰延城漢書云其王降...
中設四月妻以公主之号錫車騎嘉號...
道 所出之傳呼頗自強大歷紀晉至梁...
年遣使康石憶丘波那奉表入朝

倭國使

倭國在東...
其北岸...
出貢珠青玉...
漢書無...
面文身以...
漢書無...



南朝梁「職貢圖」(北宋写本 中国歴史博物館蔵)

ヤマトと倭

ヤマト：日本語を共通言語とする民族の自称。漢字の「大和」は「大倭」を改めたもの＊

倭……ヤマト民族に対する漢語名称。蔑称のため、唐の則天武后の時代に「日本」と改められた

＊日本では漢字への理解が深まるにつれ、地名にもよい意味をもつ漢字二文字を使うようになった(例、上毛野→上野)。

元明天皇の和銅六年(七一三年)には「好字令」という勅命も出されている。

中改御見妻以公主之号錫車騎嘉敏歸慕運制乃治宮室作道所而人傳呼頗自強大歷紀晉至梁歲來歸名馬晉通年遣使康石憶丘波那奉表入朝

倭國使

倭國在

其北岸

出貢珠青玉

漢書無違旦告



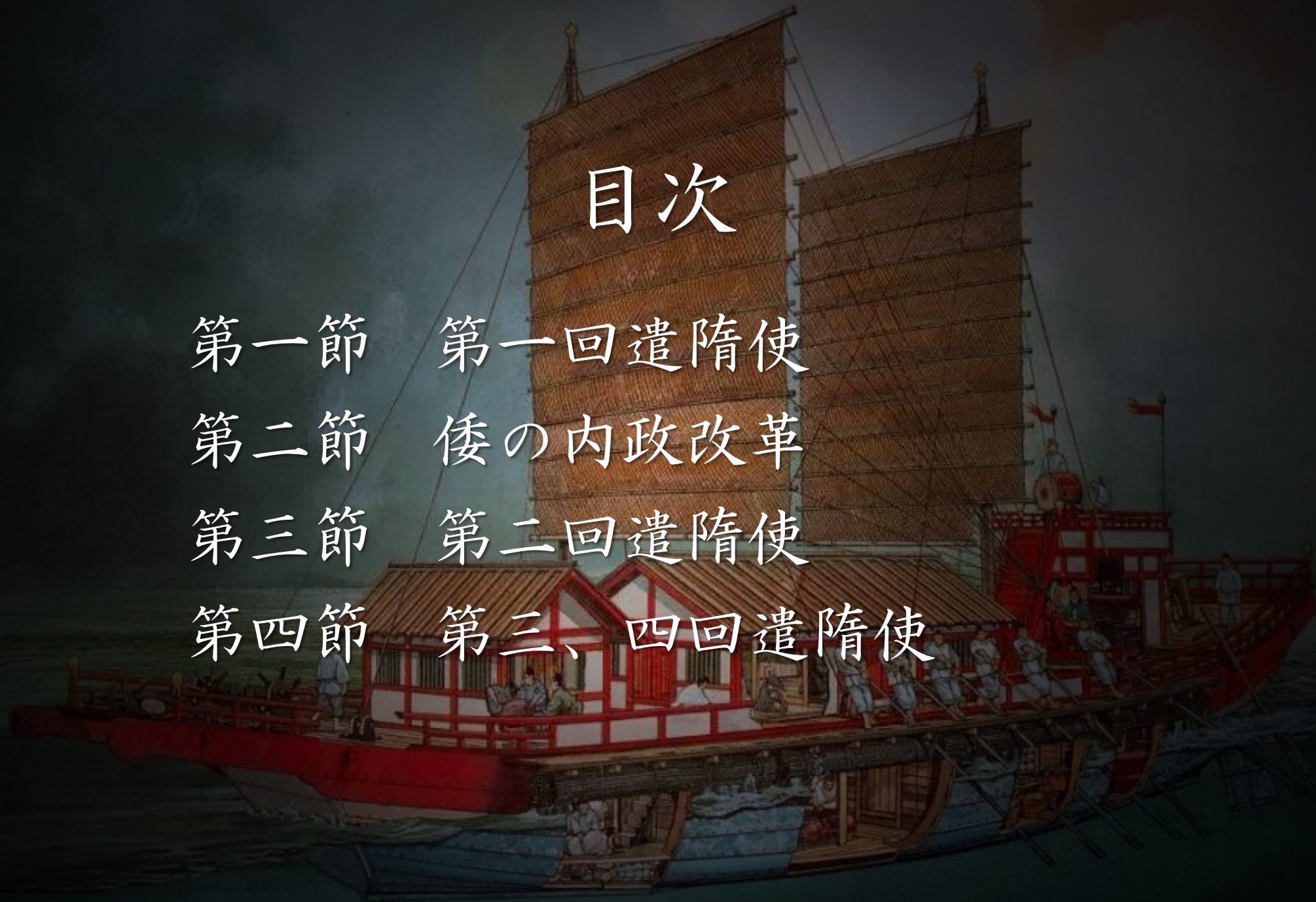
一世紀にアジアの外交舞台へのデビューを果たした倭は、日本語を共通言語とする文化圏を拡大しながら、中国や朝鮮半島との外交を通じて、先進的な文化を受容していった。

一方、倭に先進的な文化を伝えたのは、国家間の交流だけではなかった。後漢末以来、約四百年に及んだ分裂と抗争の時代の中で、大陸や朝鮮半島から多くの人々が、アジアの新世界である日本列島へと渡った。

六世紀の末、隋が中国全土を統一すると、倭はこうした渡来人たちをブレインとして改革を進め、超大国・隋との間で自主独立の平和外交を展開する。

目次

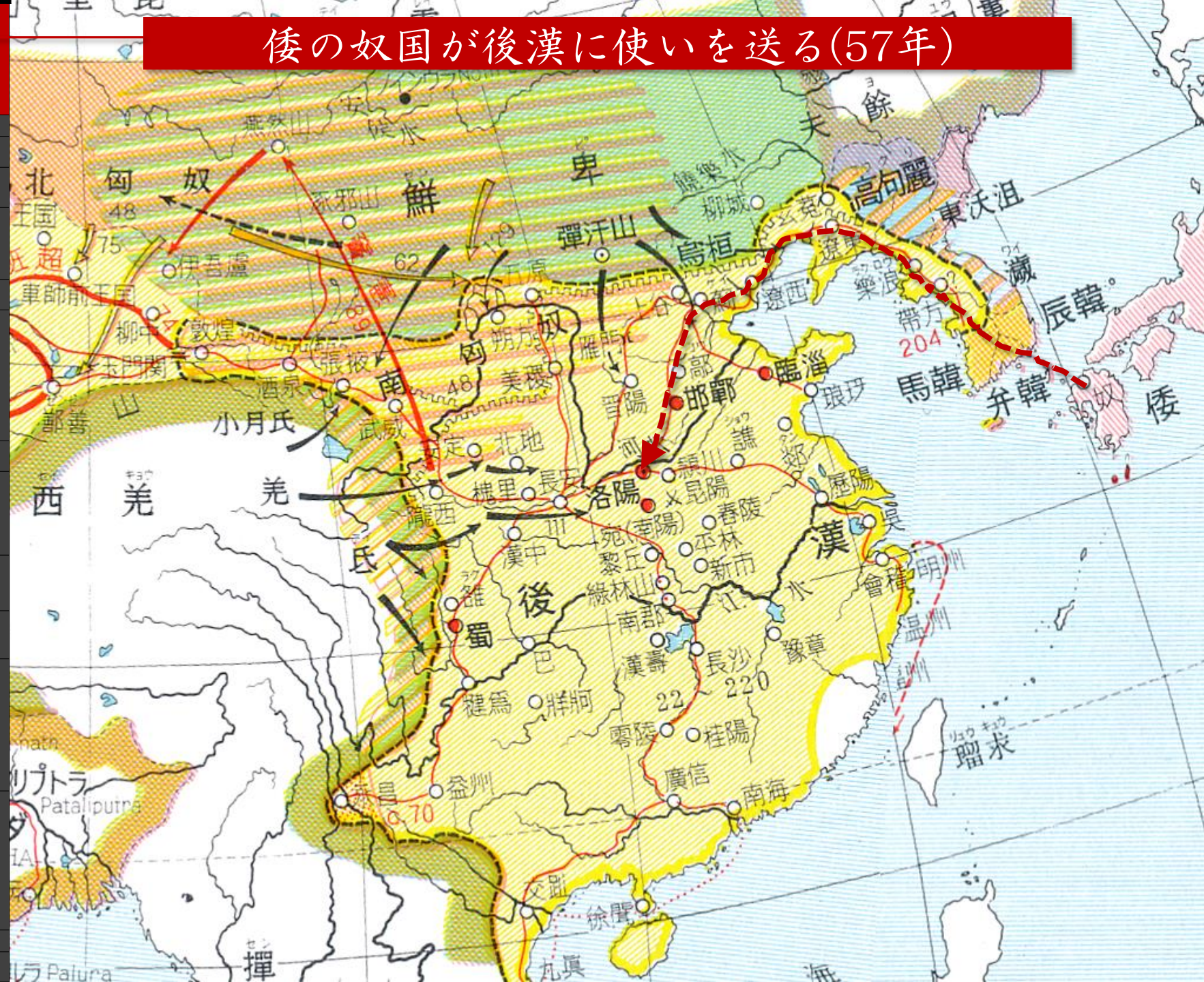
- 第一節 第一回遣隋使
- 第二節 倭の内政改革
- 第三節 第二回遣隋使
- 第四節 第三、四回遣隋使



第一節 第一回遣隋使



0	後漢 25-220	
100		
200		
300	魏 220-265	蜀 221-263 吳 222-280
400	晋 265-316	
500	五胡十六国時代	東晋 317-420
600	北朝 439-589	南朝 420-589
700	隋 581-619	
800	唐 618-907	
900	五代十国 907-960	
1000	遼	北宋 960-1127
1100		
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279
1300	元 1271-1368	
1400		
1500	明 1368-1644	
1600		
1700		
1800	清 1616-1912	
1900		
2000	中華民国 1912-1949 中華人民共和国 1949-	



江戸時代に発見された金印

〔解説〕

天明四年（一七八四年）、福岡県の志賀島（しかのしま）で、巨石の下から「漢委奴国王」の金印が発見された。



1784年に福岡県志賀島で
発見された「漢委奴国王印」
(縦2.3cm×横2.3cm 重109g)

0	後漢 25-220	
100		
200		
300	魏 220-265	蜀 221-263 吳 222-280
400	晋 265-316	
500	五胡十六国時代	東晋 317-420
600	北朝 439-589	南朝 420-589
700	隋 581-619	
800	唐 618-907	
900	五代十国 907-960	
1000	遼	北宋 960-1127
1100		
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279
1300	元 1271-1368	
1400	明 1368-1644	
1500		
1600		
1700	清 1616-1912	
1800		
1900	中華民國 1912-1949	
2000	中華人民共和國 1949-	





島根県の神原(かんばら)神社
古墳から出土した魏の景初三
年(二三九年)の銘のある三角縁
神獣鏡

0	後漢 25-220		
100			
200	魏 220-265	蜀 221-263	吳 222-280
300	晉 265-316		
400	五胡十六国時代	東晉 317-420	
500	北朝 439-589	南朝 420-589	
600	隋 581-619		
700			
800	唐 618-907		
900			
1000	五代十国 907-960		
1100	遼	北宋 960-1127	
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279	
1300	元 1271-1368		
1400			
1500	明 1368-1644		
1600			
1700			
1800	清 1616-1912		
1900			
2000	中華民國 1912-1949 中華人民共和國 1949-		



倭王武の上表

〔解説〕

五世紀になると中国側の資料にふたたび「倭」が登場する。

南北朝時代の宋の歴史を記した史書『宋書』に、倭の国王が送った書簡が記録されている。雄略天皇に比定される倭王武が、宋の順帝の昇明

二年（四七八年）に送った上表である。興遣使貢獻世祖大明六年詔曰倭王世子興奕世載忠作藩外海稟化寧境恭修貢職新嗣邊業宜授爵號可安東將軍倭國王興死弟武立自稱使持節都督倭百濟新羅任那加羅秦韓慕韓七國諸軍事安東大將軍倭國王順帝昇明二年遣使上表曰封國偏遠作藩于外自昔祖禰躬擐甲冑跋涉山川不遑寧處東征毛人五十五國西服衆夷六十六國渡平海北九十五國王道融泰廓土遐畿累葉朝宗不愆于歲臣雖下愚忝胤先緒驅率所統歸崇天極道遙百濟裝治船舫而句驪無道圖欲見吞掠抄邊隸虔

劉不已每致稽滯以失良風雖曰進路或通或不臣亡考濟實忿寇讐壅塞天路控弦百萬義聲感激方欲大舉奄喪父兄使垂成之功不獲一簣居在諒闇不動兵甲是以偃息未捷至今欲練甲治兵申父兄之志義士虎賁文武効功白刃交前亦所不顧若以帝德覆載摧此疆敵克靖方難無替前功竊自假開府儀同三司其餘咸假授以勸忠節詔除武使持節都督倭新羅任那加羅秦韓慕韓六國諸軍事安東大將軍倭王

荆雍州蠻獠瓠之後也分建種落布在諸郡縣荆州置南蠻雍州置寧蠻校尉以領之世祖初罷南蠻併大府而寧蠻如故蠻民順附者一戶輸穀數斛其餘無雜調而宋民賦役嚴苦貧者不復堪命多逃亡入蠻蠻無徭役疆者又不供官稅結黨連群動有數千人州郡力弱則起爲盜賊種類稍多戶口不可知也所在多



NHKスペシャル「故宫」より

0	後漢 25-220		
100			
200	魏 220-265	蜀 221-263	吳 222-280
300	晉 265-316		
400	五胡十六国時代	東晉 317-420	
500	北朝 439-589	南朝 420-589	
600	隋 581-619		
700			
800	唐 618-907		
900			
1000	五代十国 907-960		
1100	遼	北宋 960-1127	
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279	
1300	元 1271-1368		
1400			
1500	明 1368-1644		
1600			
1700			
1800	清 1616-1912		
1900			
2000	中華民國 1912-1949 中華人民共和國 1949-		



中国全土を統一した隋は、東アジアに新たな国際秩序を構築するため、抵抗する周辺諸国への侵攻を始める。

このとき隋に抵抗し、三度にわたってその侵攻を撃退した国は？

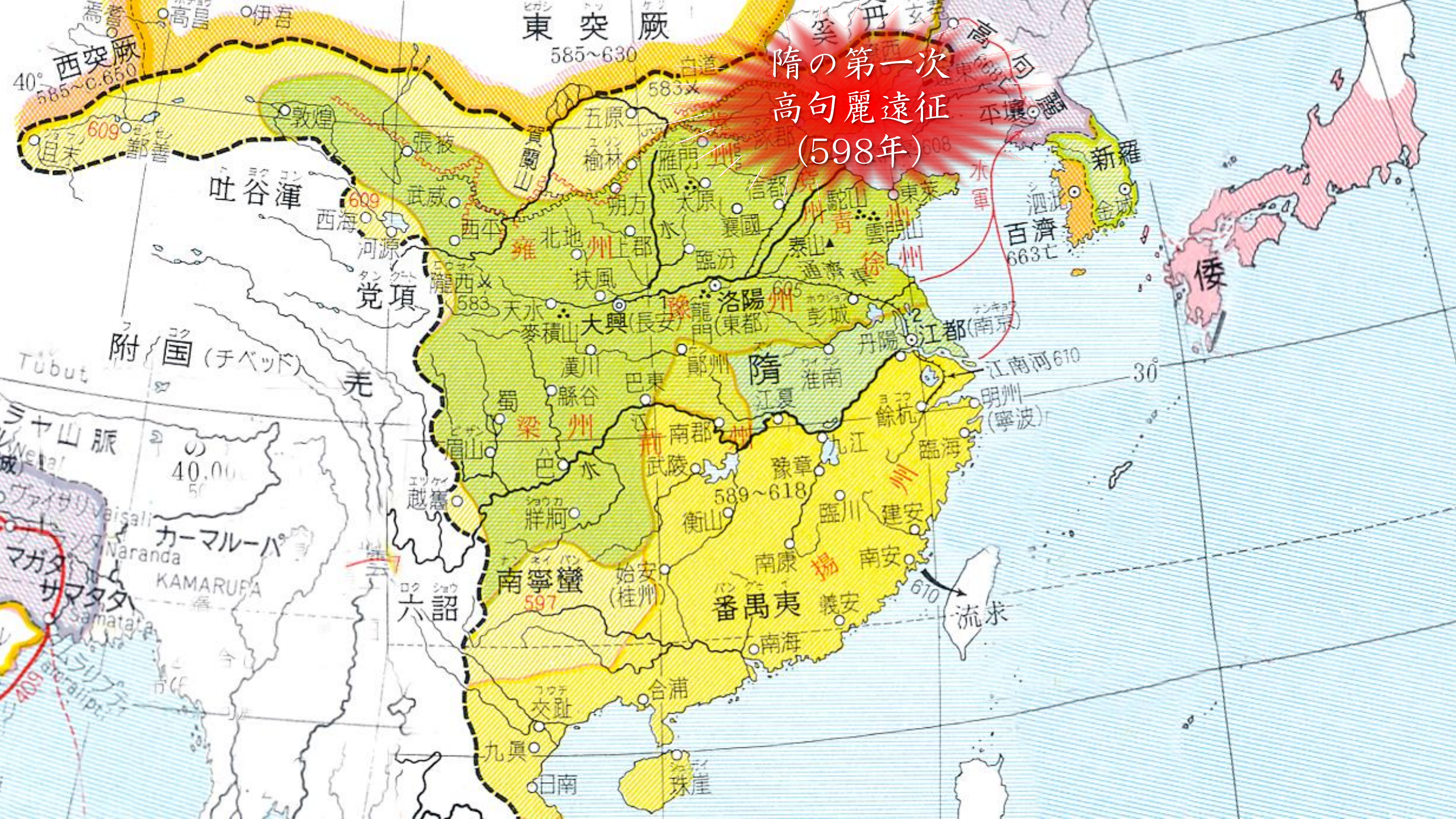
①倭

②高句麗



西暦	中国	日本	出来事
574年		敏達天皇3年	厩戸皇子(聖徳太子)生。父は用明天皇、母は穴穗部間人皇后。幼名は厩戸豊聡耳(うまやどのとよとみみ)皇子
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸皇子が皇太子(聖徳太子)となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	高句麗から僧・慧慈、百済から僧・瑟聡が来朝し聖徳太子のブレインとなる
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	倭が第一次遣隋使を派遣 *中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	倭が高句麗や百済の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	倭が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	倭が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が使人・裴世清を日本に派遣 倭が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 倭が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡

隋の第一次
高句麗遠征
(598年)

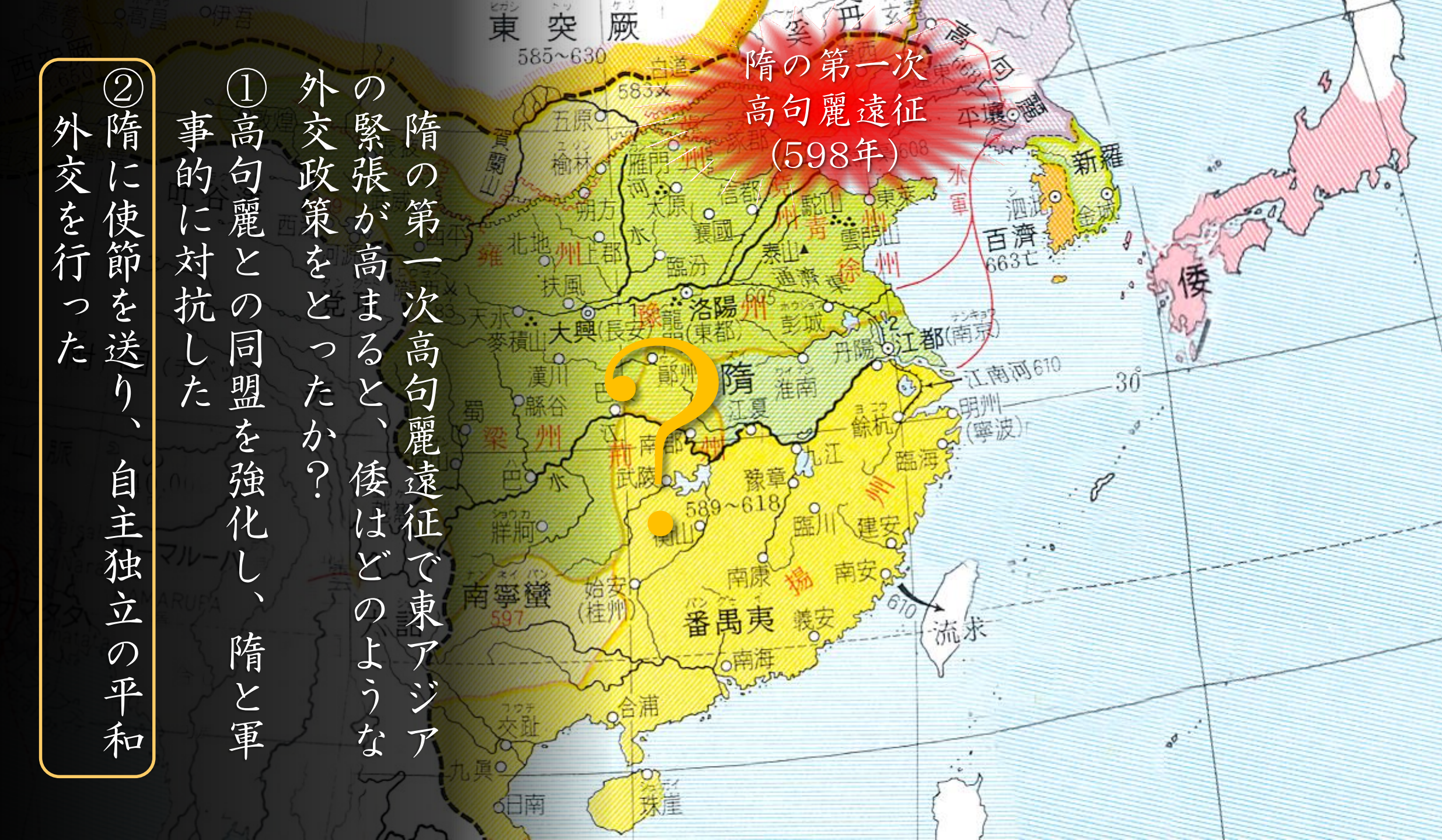


隋の第一次
高句麗遠征
(598年)

隋の第一次高句麗遠征で東アジア
の緊張が高まると、倭はどのような
外交政策をとったか？

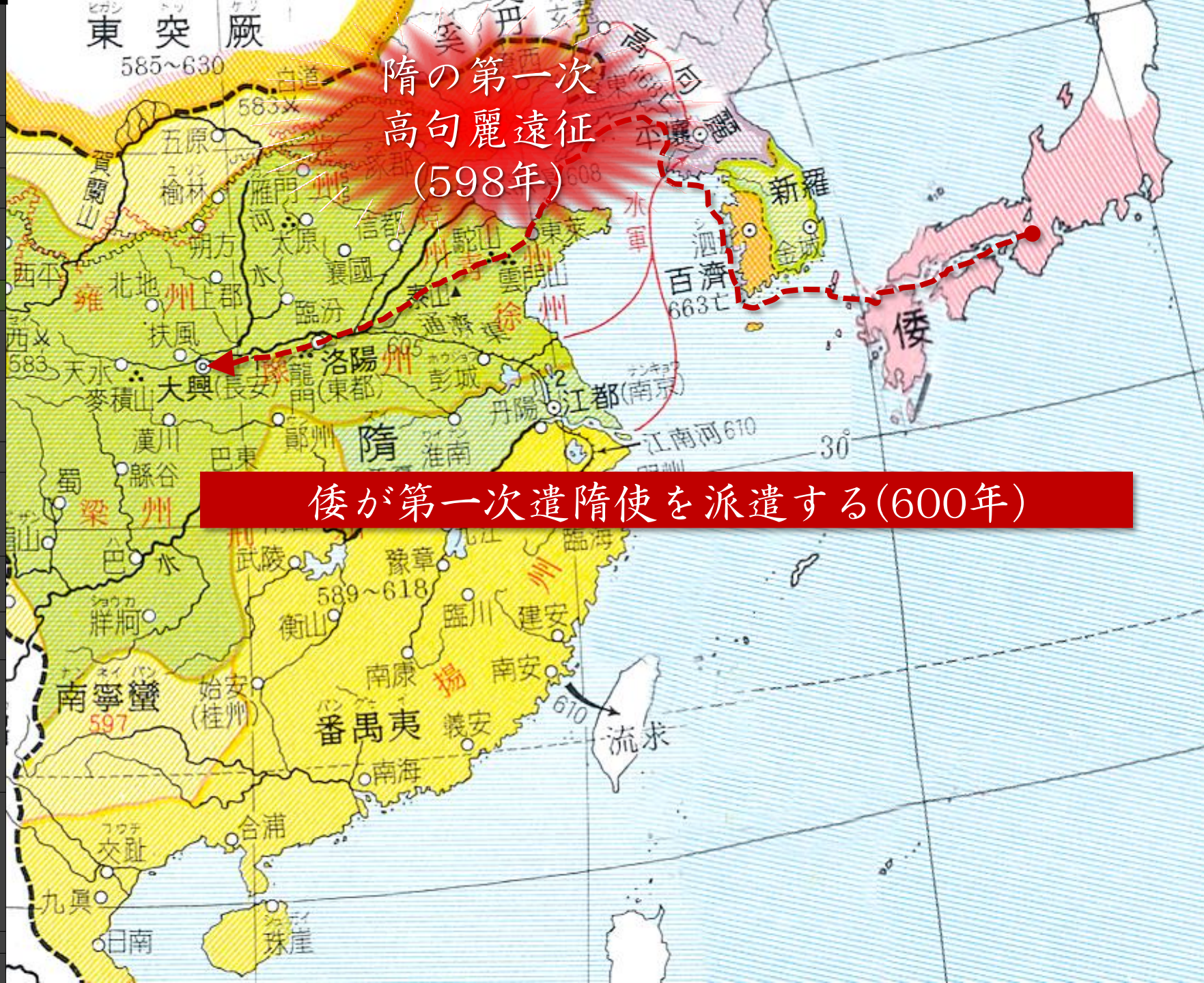
① 高句麗との同盟を強化し、隋と軍
事的に対抗した

② 隋に使節を送り、自主独立の平和
外交を行った



西暦	中国	日本	出来事
574年		敏達天皇3年	厩戸皇子(聖徳太子)生。父は用明天皇、母は穴穗部間人皇后。幼名は厩戸豊聡耳(うまやどのとよとみみ)皇子
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸皇子が皇太子(聖徳太子)となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	高句麗から僧・慧慈、百済から僧・瑟聡が来朝し聖徳太子のブレインとなる
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	倭が第一次遣隋使を派遣 *中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	倭が高句麗や百済の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	倭が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	倭が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が使人・裴世清を日本に派遣 倭が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 倭が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡

0	後漢 25-220		
100			
200			
300	魏 220-265	蜀 221-263	吳 222-280
400	晉 265-316		
500	五胡十六国時代	東晉 317-420	
600	北朝 439-589	南朝 420-589	
700	隋 581-619		
800	唐 618-907		
900	五代十国 907-960		
1000	遼	北宋 960-1127	
1100			
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279	
1300	元 1271-1368		
1400			
1500	明 1368-1644		
1600			
1700			
1800	清 1616-1912		
1900			
2000	中華民國 1912-1949		
	中華人民共和國 1949-		



② 隋が倭の後進性を批判したため

① 隋が倭の使節の帰国を許さなかったため
か？
第一回遣隋使について記しているのは中国側の史書だけで、日本側には記録が残っていない。それはなぜか？



〔解説〕

卷八一の東夷伝の倭国の条には、

遣された遣隋使の事績が記録されて

いる。武賁郎將陳稜朝請大夫張鎮州率兵自義安浮海擊之至高華

嶼又東行二日至鼉嶼又一日便至流求初稜將南方諸國人從軍有崐崙人頗解其語遣人慰諭之流求不從拒逆官軍稜擊走之進至其都頻戰皆敗焚其宮室虜其男女數千人載軍實而還自爾遂絕

倭國

後國在百濟新羅東南水陸三千里於大海之中依山島而居魏時譯通中國三十餘國皆自稱王夷人不知里數但計以日其國境東西五月行南北三月行各至於海其地執勢東高西下都於邪靡堆則魏志所謂邪馬臺者也古云去樂浪郡境及帶方郡並一

隋書

十六

倭の後進性への批判

「開皇二十年（六〇〇年）、倭王、姓は阿每（アメ？）、字は多利思比孤（タリシヒコ？）、阿輩鷄弥（オオキミ？）と号す者が、隋の都・大興（現在の西安）に使節を遣わした。」

『隋書』卷八一東夷伝倭国

國言不相通掠一人而返明年帝復令寬慰撫之流求不從寬取其布甲而還時倭國使來朝見之曰此夷邪父國人所_レ用也帝遣武賁郎將陳稜朝請大夫張鎮州率兵自義安浮海擊之至高華嶼又東行二日至甌龔嶼又一日便至流求初稜將南方諸國人從軍有崐崙人頗解其語遣人慰諭之流求不從拒逆官軍稜擊走之進至其都頻戰皆敗焚其宮室虜其男女數千人載軍實而還自爾遂絕

倭國

倭國在百濟新羅東南水陸三千里於大海之中依山島而居魏時譯通中國三十餘國皆自稱王夷人不知里數但計以日其國境東西五月行南北三月行各至於海其地勢東高西下都於邪靡堆則魏志所謂邪馬臺者也古云去樂浪郡境及帶方郡並一

萬一千里在會稽之東與儋耳相近漢光武時遣使入朝自稱大扶安帝時又遣使朝貢謂之倭奴國桓靈之間其國大亂遞相攻伐歷年無主有女子名卑彌呼能以鬼道教衆於是國人共立爲王有男弟佐卑彌理國其王有侍婢千人罕有見其面者唯有男子二人給王飲食通傳言語其王有宮室樓觀城柵皆持兵守衛爲法甚嚴自魏至于齊梁代與中國相通開皇二十年倭王姓阿每字多利思北孤號阿輩鷄彌遣使詣關上令所司訪其風俗使者言倭王以天爲兄以日爲弟天未明時出聽政跣趺坐日出便停理務云委我弟高祖曰此大無義理於是訓令改之王妻號雞彌後宮有女六七百人名太子爲利歌彌多弗利無城郭內官有十二等一曰大德次小德次大仁次小仁次大義次小義次大禮次小禮次大智次小智次大信次小信員無定數有軍尼一百二

倭の後進性への批判

「隋の高祖（文帝）は係官にその風俗を訪ねさせた。（倭の）使者は『倭王は天を兄とし、日を弟としております。夜が明ける前は出て政を聞き、胡座しておりますが、日が出れば政務を止め弟に任せようと申します』と答えた。」

高祖は「それは不合理すぎる」（從と取其布甲而還時倭國使來朝見之曰此夷邪父國人所用地帝遣武賁郎將陳稜韓績大夫賈銀州卒兵自義安海擊之至高華嶼又東行二日至甌甌嶼又『隋書』卷八初稜陳煥倭國從軍有崐崙人頗解其語遣人慰諭之流求不從拒逆官軍稜擊走之進至其都頻戰皆敗焚其宮室虜其男女數千人載軍實而還自爾遂絕

倭國

倭國在百濟新羅東南水陸三千里於大海之中依山島而居魏時譯通中國三十餘國皆自稱王夷人不知里數但計以日其國境東西五月行南北三月行各至於海其地勢東高西下都於邪靡堆則魏志所謂邪馬臺者也古云去樂浪郡境及帶方郡並一

萬一千里在會稽之東與儋耳相近漢光武時遣使入朝自稱大扶安帝時又遣使朝貢謂之倭奴國桓靈之間其國大亂遞相攻伐歷年無主有女子名卑彌呼能以鬼道教眾於是國人共立爲王有男弟佐卑彌理國其王有侍婢千人罕有見其面者唯有男子二人給王飲食通傳言語其王有宮室樓觀城柵皆持兵守衛爲法甚嚴自魏至于齊梁代與中國相通開皇二十年倭王姓阿每字多利思北孤號阿輩雞彌遣使詣關上令所司訪其風俗使者言倭王以天爲兄以日爲弟天未明時出聽政跣趺坐日出便停理務云委我弟高祖曰此大無義理於是訓令改之王妻號雞彌後宮有女六七百人名太子爲利歌彌多弗利無城郭內官有十二等一曰大德次小德次大仁次小仁次大義次小義次大禮次小禮次大智次小智次大信次小信員無定數有軍尼一百二

日本書紀卷二二推古天皇紀

〔解説〕

日本書紀は古事記の編纂から八年後の七二〇年に完成した日本最初の編年体史書。

卷二二の推古天皇紀には、三回にわたって派遣された遣隋使の事績が記録されているが、中国側の史書に見られる推古八年（六〇〇年）の第一回遣隋使は記録されていない。

頭白雉一侯

八年春二月新羅與任那相攻天皇欲救任那是歲命境部臣爲大將軍以穗積臣爲副將軍並闕名則將萬餘衆爲任那擊新羅於是直指新

羅於是直指新羅以泛海往之乃到于新羅攻五城而拔於是新羅王惶之舉白旗到于將軍之麾下而立割多多羅素奈羅弗知鬼委陀而迦羅阿羅々六城以請服時將軍共議曰新羅知罪服之強擊不可則奏上爰天皇更遣難波吉師神於新羅復遣難波吉土木蓮子於任那並檢校事狀爰新羅任那王二國遣使貢調仍奏表之曰天上有神地有天皇除是二神何亦

失敗におわった第一次遣隋使

〔解説〕

隋は、政治・軍事の中央集権化、律令制による法治体制、科挙による平等な人材登用など、一連の改革によって中国の再統一を実現した、世界の最先進国であつた。

そんな隋にとって、いまだ宗教と政治が未分化な倭は、まともな外交交渉の相手ではなかつた。

このため第一次遣隋使の派遣は、失敗に終わり、『日本書紀』などの史書には記録されなかつた。



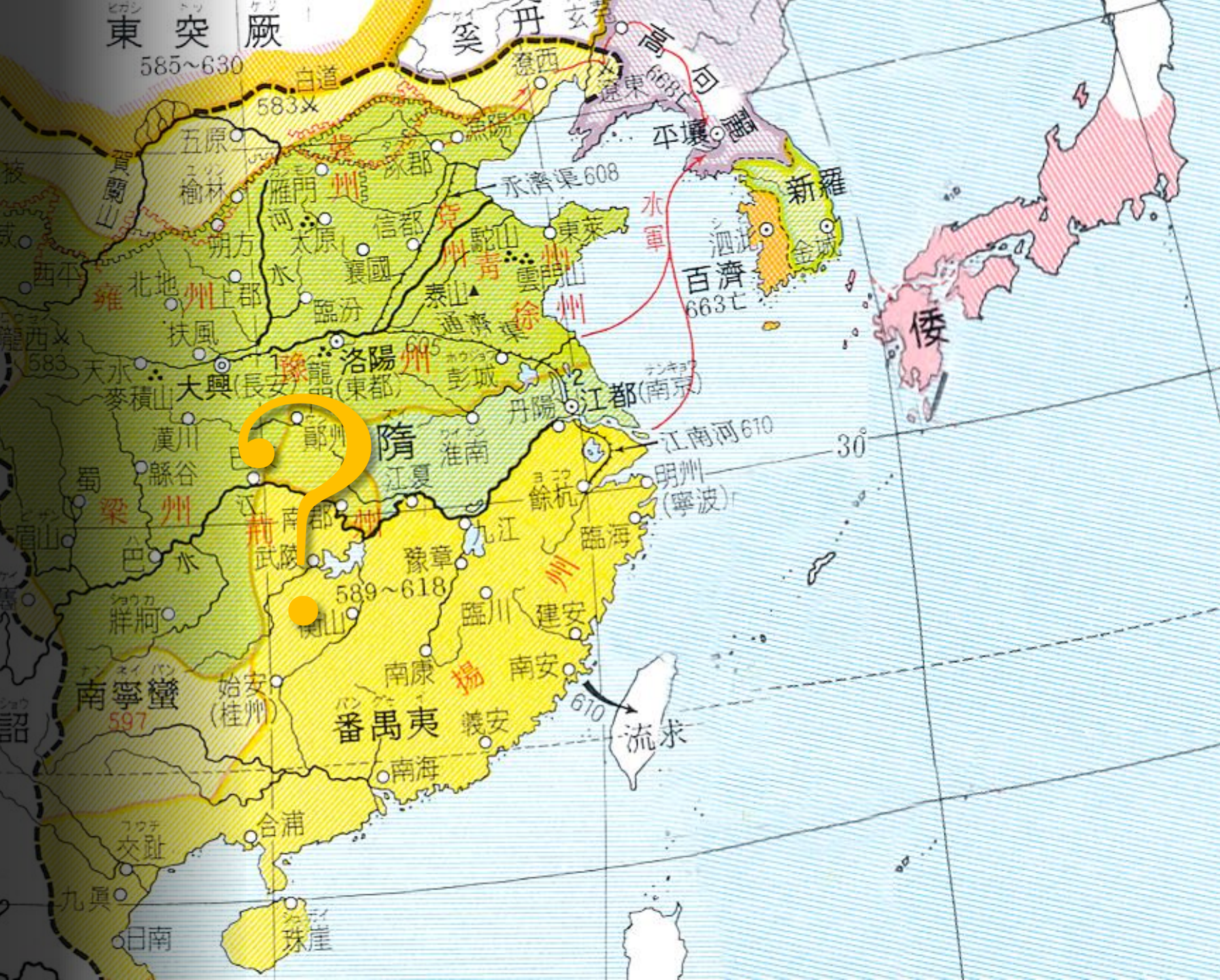
隋文帝((唐)閻立本『歴代帝王図巻』)

第二節 倭の内政改革

② 厩戸王（聖徳太子）

① 菅原道真

東アジアに誕生した超大国・隋との間で外交交渉を担当していたのは誰か？



西暦	中国	日本	出来事
574年		敏達天皇3年	厩戸皇子(聖徳太子)生。父は用明天皇、母は穴穂部間人皇后。幼名は厩戸豊聡耳(うまやどのとよとみみ)皇子
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸皇子が皇太子(聖徳太子)となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	高句麗から僧・慧慈、百済から僧・慧聡が来朝し聖徳太子のブレインとなる
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	倭が第一次遣隋使を派遣 *中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	倭が高句麗や百済の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	倭が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	倭が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が使人・裴世清を日本に派遣 倭が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 倭が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡



隋文帝(唐閻立本歷代帝王図卷)

当時、隋との外交交渉に当たっていたのは、推古天皇の摂政であった厩戸王(聖徳太子)であった。



伝聖徳太子二王子像(皇室御物)



隋文帝(唐閻立本歷代帝王図卷)

- ①中国や朝鮮に倣って改革を行った
- ②隋との交渉をやめ軍備を拡張した

隋から後進性を指摘された厩戸王
(聖徳太子)は、どうしたか？



伝聖徳太子二王子像(皇室御物)

西暦	中国	日本	出来事
574年		敏達天皇3年	厩戸皇子(聖徳太子)生。父は用明天皇、母は穴穂部間人皇后。幼名は厩戸豊聡耳(うまやどのとよとみみ)皇子
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸皇子が皇太子(聖徳太子)となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	高句麗から僧・慧慈、百済から僧・慧聡が来朝し聖徳太子のブレインとなる
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	倭が第一次遣隋使を派遣 *中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	倭が高句麗や百済の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	倭が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	倭が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が使人・裴世清を日本に派遣 倭が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 倭が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡

冠位十二階(官僚制度)

「(推古天皇の十一年)十二月、戊辰朔壬申の日、初めて冠位制度を定めた。

大徳、小徳、大仁、小人、大礼、小礼、大信、小信、大義、小義、大智、小智のあわせて十二階である」

『日本書紀』卷二二推古天皇紀

大夫曰我有尊佛像謂得是像以恭拜則泰達河勝進曰臣并之便受佛像因以造峰巽寺是月皇太子請于天皇以作大橋及鞍此云又繪于旗幟十二月戊辰朔壬申始行冠位大徳小徳大仁小仁大禮小禮大信小信大義小義大智小智并十二階並以當色純縫之頂撮捻如囊而著縁焉唯元日著髻華髻華此云

十二年春正月戊戌朔始賜冠位於諸臣各有差斐四月丙寅朔戊辰皇太子親肇作憲法十七條一曰以和爲貴無忤爲宗人皆有貴亦少達者是以或不順君父乍違于隣里然上和下睦諧於論事則事理自通何事不成二曰薦敬三寶三寶者佛法僧也則四生之終歸万國之極宗何世何人非貴是法人鮮尤惡能教從之其不歸三寶何以直枉三曰承認必謹君則天

西暦	中国	日本	出来事
574年		敏達天皇3年	厩戸皇子(聖徳太子)生。父は用明天皇、母は穴穂部間人皇后。幼名は厩戸豊聡耳(うまやどのとよとみみ)皇子
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸皇子が皇太子(聖徳太子)となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	高句麗から僧・慧慈、百済から僧・慧聡が来朝し聖徳太子のブレインとなる
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	倭が第一次遣隋使を派遣 *中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	倭が高句麗や百済の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	倭が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	倭が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が使人・裴世清を日本に派遣 倭が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 倭が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡

憲法十七条

「(推古天皇の)十二年春正月、戊戌朔、はじめて諸臣に冠位を賜った。各々差あり。

夏四月、丙寅朔戊辰の日、皇太子(聖徳太子)が、みずから初めて憲法十七条を作った。」

『日本書紀』卷二二推古天皇紀

申遷于小墾田宮十一月己亥朔皇太子請諸大夫曰我有尊佛像誰得是像以恭拜時奈造河勝進曰臣并之便受佛像因以造峰罌寺是月皇太子請于天皇以作大橋及鞍勅此云又繪于旗幟十二月戊辰朔壬申始行冠位大德小德大仁小仁大禮小禮大信小信大義小義大智小智并十二階並以當色純縫之頂撮捻如囊而著緣焉唯元日著髻華髻華此云

十二年春正月戊戌朔始賜冠位於諸臣各有差差四月丙寅朔戊辰皇太子親肇作憲法十七條七條一曰以和爲貴無忤爲宗人皆有貴亦少達者是以或不順君父乍違于隣里然上和下睦諧於論事則事理自通何事不成二曰薦敬三寶三寶者佛法僧也則四生之終歸萬國之極宗何世何人非貴是法人鮮尤惡能教從之其不歸三寶何以直枉三曰承認必謹君則天



厩戸皇子(聖徳太子)は、超大国・隋との間で自主独立の平和外交を進めるため、どのような人材をブレインとしたか？

①皇族や古くから倭王家に使える豪族たち

②朝鮮半島から来た僧侶たち

西暦	中国	日本	出来事
574年		敏達天皇3年	厩戸皇子(聖徳太子)生。父は用明天皇、母は穴穂部間人皇后。幼名は厩戸豊聡耳(うまやどのとよとみみ)皇子
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸皇子が皇太子となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	厩戸皇子、来朝した高句麗僧・慧慈、百済僧・瑟聡をブレインとし、東アジアの国際情勢について学ぶ
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	倭が第一次遣隋使を派遣 *中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	倭が高句麗や百済の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	倭が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	倭が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が使人・裴世清を日本に派遣 倭が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 倭が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡

厩戸皇子(聖徳太子)のブレイン

「(推古天皇の三年)五月、戊午朔丁卯の日、高麗(高句麗のこと)の僧・恵慈が帰化し、皇太子(聖徳太子)はこれに師事した。

この年、百済の瑟聡も来朝した。この二人の僧は仏教を広め、ともに三宝の棟梁となった。」

即是謂寺焉

『日本書紀』卷二二推古天皇紀

三年夏四月沈水漂著於淡路嶋其大一圍嶋人不知沈水以交薪燒於竈其烟氣遠薰則異以獻之五月戊午朔丁卯高麗僧恵慈歸化則皇太子師之是歲百濟瑟聡來之此兩僧弘演佛教並爲三寶之棟梁秋七月將車等至自筑

紫

四年冬十一月法興寺造竟則以大臣男善徳臣拜寺司是日恵慈恵聡二僧始住於法興寺五年夏四月丁丑朔百濟王遣王子阿佐朝貢冬十一月癸酉朔甲子遣吉士磐金於新羅六年夏四月難波吉士磐金至自新羅而獻鵲二侯乃俾養於難波杜因以巢枝而産之秋八月己亥朔新羅貢孔雀一侯冬十月戊戌朔一





NHK E

NHK ETV特集「日本と朝鮮の2000年・第3回 仏教伝来」より

第三節 第二次遣隋使



西暦	中国	日本	出来事
574年		敏達天皇3年	厩戸皇子(聖徳太子)生。父は用明天皇、母は穴穂部間人皇后。幼名は厩戸豊聡耳(うまやどのとよとみみ)皇子
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸皇子が皇太子となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	厩戸皇子、来朝した高句麗僧・慧慈、百済僧・慧聰をブレインとし、東アジアの国際情勢について学ぶ
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	倭が第一次遣隋使を派遣 *中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	倭が高句麗や百済の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	倭が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	倭が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が使人・裴世清を日本に派遣 倭が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 倭が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡

第二次遣隋使

「大業三年（六〇七年）、その王・多利思比孤が、使いを遣わして朝貢した。使者は言った。

『海の西の菩薩天子が仏法を再興されたと聞きましたので、朝貢の使節を遣わすとともに、僧侶数十人を同行させ、仏法を学ばせたいと思います。』」

隋書卷八一 東夷伝倭国

暖草木冬青土地膏腴水多陸少以小環挂鸕鷀項令入水捕魚日得百餘頭俗無盤俎藉以櫛葉食用手舖之性質直有雅風女多男少婚嫁不取同姓男女相悅者即爲婚婦入夫家必先跨犬乃與夫相見婦人不姪妬死者歛以棺槨親賓就屍歌舞妻子兄弟以白布製服貴人三年殯於外庶人卜日而瘞及瘞置屍船上陸地牽之或以小輦有阿蘇山其石無故火起接天者俗以爲異因行禱祭有如意寶珠其色青大如雞卵夜則有光云魚眼精也新羅百濟皆以倭爲大國多珍物並敬仰之恒通使往來大業三年其王多利思比孤遣使朝貢使者曰聞海西菩薩天子重興佛法故遣朝拜兼沙門數十人來學佛法其國書曰日出處天子致

隋書卷八一

十一

書日沒處天子無恙云云帝覽之不悅謂鴻臚卿曰蠻夷書有無禮者勿復以聞明年上遣文林郎裴清使於倭國度百濟行至竹島南望舩羅國經都斯麻國回在大海中又東至一支國又至竹斯國又東至秦王國其人同於華夏以爲夷洲疑不能明也又經十餘國達於海岸自竹斯國以東皆附庸於倭倭王遣小德阿輩臺從數百人設儀仗鳴鼓角來迎後十日又遣大禮哥多毗從二百餘騎郊勞既至彼都其王與清相見大悅曰我聞海西有大隋禮義之國故遣朝貢我夷人僻在海隅不聞禮義是以稽留境內不即相見今故清道飾館以待大使冀聞大國惟新之化清答曰皇帝德並二儀澤流四海以王慕化故遣行人來此宣諭既而引清就館其後清遣人謂其王曰朝命既達請即戒塗於是設宴享以遣清復令使者隨清來貢方物此後遂絕

第二次遣隋使

「その国書には、こう書かれていた。
『日出ずるところの天子が日没する
ところの天子に国書を送ります。つ
つがなくお過ごしでしょうか。』
煬帝はこれ読むと気分を害し、鴻
臚卿（外交担当の大臣）に『野蛮人の国
書には無礼なところがある。もう報
告する必要はない』と言った。」

隋書卷八一 東夷伝倭国

暖草木冬青土地膏腴水多陸少以小環挂鸕鷀項令入水捕魚
日得百餘頭俗無盤俎藉以櫛葉食用手舖之性質直有雅風女
多男少婚嫁不取同姓男女相悅者卽爲婚婦入夫家必先跨犬
乃與夫相見婦人不姪姪死者歛以棺槨親賓就屍歌舞妻子兄
弟以白布製服貴人三年殯於外庶人卜日而瘞及瘞置屍船上
陸地牽之或以小輦有阿蘇山其石無故火起接天者俗以爲異
因行禱祭有如意寶珠其色青大如雞卵夜則有光云魚眼精也
新羅百濟皆以倭爲大國多珍物並敬仰之恒通使往來大業三
年其王多利思北孤遣使朝貢使者曰聞海西菩薩天子重興佛
法故遣朝拜兼沙門數十人來學佛法其國書曰日出處天子致

書日沒處天子無恙云云帝覽之不悅謂鴻臚卿曰蠻夷書有無
禮者勿復以聞明年上遣文林郎裴清使於倭國度百濟行至竹
島南望舩羅國經都斯麻國回在大海中又東至一支國又至竹
斯國又東至秦王國其人同於華夏以爲夷洲疑不能明也又經
十餘國達於海岸自竹斯國以東皆附庸於倭倭王遣小德阿輩
臺從數百人設儀仗鳴鼓角來迎後十日又遣大禮哥多毗從二
百餘騎郊勞旣至彼都其王與清相見大悅曰我聞海西有大隋
禮義之國故遣朝貢我夷人僻在海隅不聞禮義是以稽留境內
不卽相見今故清道飾館以待大使冀聞大國惟新之化清答曰
皇帝德並二儀澤流四海以王慕化故遣行人來此宣諭旣而引
清就館其後清遣人謂其王曰朝命旣達請卽戒塗於是設宴享
以遣清復令使者隨清來貢方物此後遂絕



隋煬帝(唐閻立本歷代帝王圖卷)

②倭の王が自らを「天子」と称した
から

①隋を「日没するところ」と表現し
たから

隋の煬帝はなぜ倭が送った国書に
気分を害したのか？



伝聖徳太子二王子像(皇室御物)

倭はどのような勝算があつて、対
等な外交交渉を求めたのか？

① 隋が再び高句麗遠征を行うと予測
し、倭との友好関係を求めると考
えたから(平和的外交)

② 外交交渉が失敗した場合、他国と
ともに軍事力で威嚇すればよいと
考えたから(集団的自衛)



西暦	中国	日本	出来事
574年		敏達天皇3年	厩戸皇子(聖徳太子)生。父は用明天皇、母は穴穂部間人皇后。幼名は厩戸豊聡耳(うまやどのとよとみみ)皇子
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸皇子が皇太子となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	厩戸皇子、来朝した高句麗僧・慧慈、百済僧・瑟聡をブレインとし、東アジアの国際情勢について学ぶ
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	倭が第一次遣隋使を派遣 *中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	倭が高句麗や百済の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	倭が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	倭が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が使人・裴世清を日本に派遣 倭が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 倭が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡



隋煬帝(唐閻立本歷代帝王図卷)

② 失敗した

① 成功した



隋との対等な外交交渉は成功した
のか？



伝聖徳太子二王子像(皇室御物)

西暦	中国	日本	出来事
574年		敏達天皇3年	厩戸皇子(聖徳太子)生。父は用明天皇、母は穴穂部間人皇后。幼名は厩戸豊聡耳(うまやどのとよとみみ)皇子
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸皇子が皇太子となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	厩戸皇子、来朝した高句麗僧・慧慈、百済僧・瑟聡をブレインとし、東アジアの国際情勢について学ぶ
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	倭が第一次遣隋使を派遣 *中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	倭が高句麗や百済の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	倭が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	倭が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が倭に使人・裴世清を派遣 倭が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 倭が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡

第四節 第三、四次遣隋使



西暦	中国	日本	出来事
574年		敏達天皇3年	厩戸皇子(聖徳太子)生。父は用明天皇、母は穴穂部間人皇后。幼名は厩戸豊聡耳(うまやどのとよとみみ)皇子
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸皇子が皇太子となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	厩戸皇子、来朝した高句麗僧・慧慈、百済僧・瑟聡をブレインとし、東アジアの国際情勢について学ぶ
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	倭が第一次遣隋使を派遣 *中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	倭が高句麗や百済の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	倭が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	倭が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が倭に使人・裴世清を派遣 倭が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 倭が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡

第二次遣隋使の外交は成功し、隋からは裴世清らの使節が派遣された。倭は隋の使節を送るため、第三次遣隋使を派遣するとともに、八名の学生を隋に留学させた。

第三次遣隋使と留学生

倭が第二次遣隋使を派遣する(607年)

隋が倭に使人・裴世清を派遣(608年)

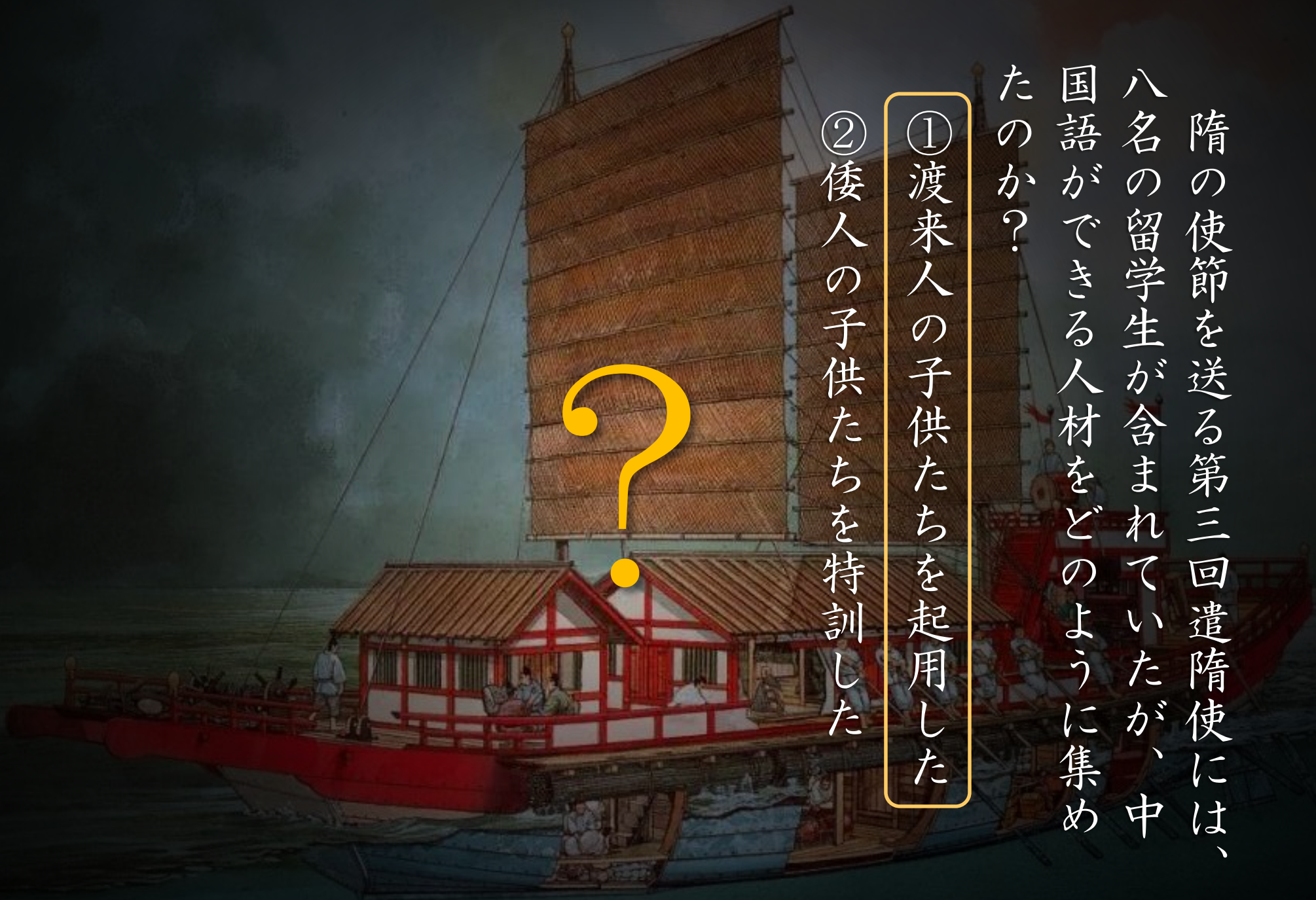
倭が第三次遣隋使を派遣する(608年)



隋の使節を送る第三回遣隋使には、
八名の留学生が含まれていたが、中
国語ができる人材をどのように集め
たのか？

①渡来人の子供たちを起用した

②倭人の子供たちを特訓した



第三次遣隋使(送使)

「九月辛巳、隋使・裴世清が任務を終えて帰国することになった。そこで再び小野妹子を大使とし、吉士雄成(きしのおなり)を小使とし、(鞍作)福利を通訳として、隋使の随行として派遣した。」

『日本書紀』卷二二推古天皇十六年

置於大門前枕上而奏之事畢而退焉是時皇子諸王諸臣悉以金髻華著頭亦衣服皆用錦紫繡織及五色綾羅一云服色皆用冠色丙辰饗唐客等於朝九月辛未朔乙亥饗客等於難波大郡宰也唐客裴世清罷歸則復以小野妹子臣爲大使吉士雄成爲小使福利爲通事副于唐客而遣之爰天皇聘唐帝其辭曰東天皇敬白西皇帝使人鴻臚寺掌客裴世清等至又憶方解季秋薄冷尊何如想清念此即如常今遣大禮藕因高太禮乎那利等往謹白不具是時遣於唐國學生倭漢直福因奈羅譯語惠明高向漢人玄理新漢人太國學問僧新漢人日文南淵漢人請安志賀漢人惠隱漢人廣濟等并八人也

隋に派遣された最初の留学生たち

「この時、唐国に遣わされし学生は、倭漢直福因（やまとのあやのあた いふくいん）奈羅訳語恵明（ならのおさえみよう）

高向漢人玄理（たかむくのあやひとくろまる）

新漢人大国（いまきのあやひとおおくに）

学問僧は、

新漢人日文（いまきのあやひとにちもん）

南淵漢人請安（みなみぶちのあやひとしょうあん）

志賀漢人恵隱（しがのあやひとえいん）

漢人広濟（あやひとこうさい）

など并せて八人なり。

紫繡織及五色日本書紀卷二二推古天皇十六年
於朝九月辛未朔乙亥饗客等於難波大郡宰
也唐客裴世清罷歸則復以小野妹子臣爲大
使吉士雄成爲小使福利爲通事副于唐客而
遣之爰天皇聘唐帝其辭曰東天皇敬白西皇
帝使人鴻臚寺掌客裴世清等至又憶方解季
秋薄冷尊何如想清念此即如常今遣大禮藕
因高太禮乎那利等往謹白不具是時遣於唐
國學生倭漢直福因奈羅譯語恵明高向漢人
玄理新漢人大國學問僧新漢人日文南淵漢
人請安志賀漢人恵隱漢人廣濟等并八人也

隋に派遣された最初の留学生たち

「隋に留学生・留学僧としてつかわした八人の秀才をみると……倭漢直だけは正式の氏の名であるが、他の七人はそれではない。イマキノアヤというのは氏の名でなく『新しく渡来した、別系統の帰化人』という意味であり……名前をみても、フクイン・エミヨウ・ゲンリなどみな音読されていた。」

「どうやら彼らは、六世紀という新しい時点で渡来した南梁系の帰化人だったのではなかろうか。」

平野邦雄『帰化人と古代国家』（吉川弘文館）

平野邦雄

歴史
文化
セレクション

帰化人と 古代国家

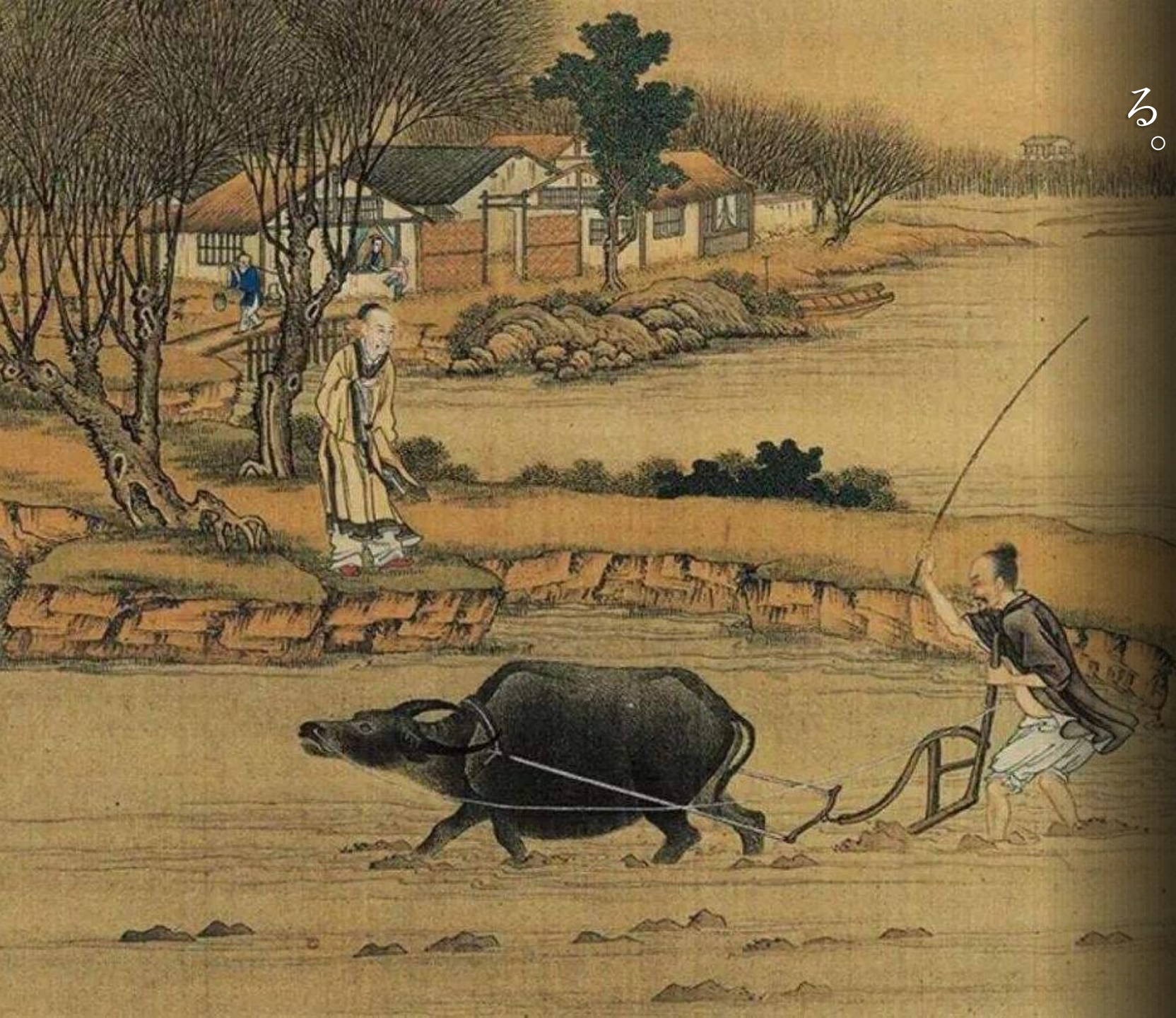


隋使が見た倭の中の秦王国

〔解説〕

当時の倭には中国や朝鮮半島での戦乱を避けて、多くの人々が渡来していた。

彼らは渡来してからも自らの言語や文化を守って暮らしていたことが、隋の使節の報告によって知られている。



隋使が見た倭の中の秦王国

「第二次遣隋使の」翌年、隋の煬帝は
文林郎・裴世清を倭国に派遣した。

百済を通つて竹島に至り、南に済
州島を見ながら、対馬を通り、再び
大海に出て東に向かうと壱岐島に至
り、さらに筑紫に至る。

さらに東に行くと秦王国に至る。

その人々は中国と同じである。か
の夷州^①かとも思われるが不明であ
る」

隋書卷八一東夷伝倭国

【注釈】

①夷州：亶州の誤りか。亶州は、秦の始皇帝の命を
受けた徐福が、不老長寿の薬を求め、数千の童男

童女を従えて渡つたと伝えられる島。光云魚眼精也
新羅百濟皆以倭爲大國多珍物並敬仰之恒通使往來大業三
年其王多利思北孤遣使朝貢使者曰聞海西菩薩天子重興佛
法故遣朝拜兼沙門數十人來學佛法其國書曰日出處天子致

隋書卷八一

十一

書日沒處天子無恙云云帝覽之不悅謂鴻臚卿曰蠻夷書有無

禮者勿復以聞明年上遣文林郎裴清使於倭國度百濟行至竹

島南望舩羅國經都斯麻國回在大海中又東至一支國又至竹

斯國又東至秦王国其人同於華夏以爲夷洲疑不能明也又經

十餘國達於海岸自竹斯國以東皆附庸於倭倭王遣小德阿輩

臺從數百人設儀仗鳴鼓角來迎後十日又遣大禮哥多毗從二

百餘騎郊勞既至彼都其王與清相見大悅曰我聞海西有大隋

禮義之國故遣朝貢我夷人僻在海隅不聞禮義是以稽留境內

不卽相見今故清道飾館以待大使冀聞大國惟新之化清答曰

皇帝德並二儀澤流四海以王慕化故遣行人來此宣諭既而引

清就館其後清遣人謂其王曰朝命既達請卽戒塗於是設宴享

以遣清復令使者隨清來貢方物此後遂絕

0	後漢 25-220		
100			
200	魏 220-265	蜀 221-263	吳 222-280
300	晉 265-316		
400	五胡十六国時代	東晉 317-420	
500	北朝 439-589	南朝 420-589	
600	隋 581-619		
700			
800	唐 618-907		
900			
1000	五代十国 907-960		
1100	遼	北宋 960-1127	
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279	
1300	元 1271-1368		
1400			
1500	明 1368-1644		
1600			
1700			
1800	清 1616-1912		
1900			
2000	中華民國 1912-1949 中華人民共和國 1949-		





対馬

壱岐島

済州島

筑紫



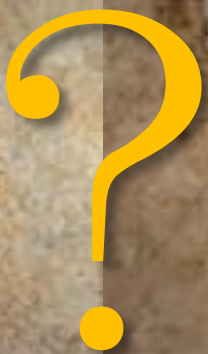
隋の使節・裴世清一行の訪日ルート



ある古墳から、中国や朝鮮半島との交流を通じて倭の人々の姿がどのように変ったかがわかる壁画が見つかった。それはどこにある古墳か？

① 群馬県高崎市

② 奈良県明日香村





高松塚古墳壁画(7～8世紀)

魏書卷之六十六
 列傳第六十六
 慕容紹宗妻其王降
 中夜以自妻以公主之号錫車騎嘉穀既歸慕遠嗣乃治宮室作
 道所出之傳呼頗自強大歷魏晉至梁歲來靡名焉昔通
 年遣使康石憶丘波鄰奉表入朝
 (6世紀)

倭國在東海中大倭國居日本南之
其北岸大虛三十餘國丁方餘里倭王所居人祇左會稽馬平氣暖地
出真珠青玉燕牛馬虎豹羊鷄
面文身以金錦帖身大
南朝

南朝梁蕭繹「職貢圖」(6世紀)



まとめ

後漢末以来、約四百年に及んだ分裂と抗争の時代の中で、大陸や朝鮮半島から多くの人々が、アジアの新世界である日本列島へと渡った。

六世紀の末、隋が中国全土を統一し、東アジアの緊張が高まると、倭はこうした渡来人たちをブレインとして改革を進め、超大国・隋との間で自主独立の平和外交を実現した。

参考文献

- 石原道博編訳『魏志倭人伝・後漢書倭伝・宋書倭国伝・隋書倭国伝―中国正史日本伝①』（岩波文庫、一九五一年）
- 吉田孝『日本の誕生』（岩波新書、一九九七年）
- 上田正昭『渡来の古代史』（角川書店、二〇一三年）
- 平野邦雄『帰化人と古代国家』（吉川弘文館）

映像資料

- NHK ETV特集「日本と朝鮮の二〇〇〇年・第二回 任那日本府の謎」
- NHK ETV特集「日本と朝鮮の二〇〇〇年・第三回 仏教伝来」